

◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：NPO法人 いろいろ生きものネット埼玉

22A-22

代表者：代表理事 脇坂純一

URL : <https://iinenet101.jimdofree.com/>

1. 活動が必要とされた状況

- ① 狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動：狭山丘陵の保全活動は、継続的な取組が必要。原市沼川のオオフサモは、モニタリング活動が必要。
- ② 生物多様性保全の普及啓発活動：住民の理解と活動を促すため効果的な広報が必要。
- ③ 県内A社のビオトープ基本設計の受託：団体の経験値と事業規模の拡大を図るため。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

①狭山丘陵の里山保全及び外来植物の除去活動

- ・里山保全活動は、「奇数月の最終日曜日に実施」というルールを作り、年6回（雨と雪で2回中止、1回順延）下草刈り、台風による枯損木の伐採などを実施した。（参加者3～10人）
- ・原市沼川の特定期外来生物オオフサモの除去活動は、様子を継続的にモニタリングした。

②生物多様性保全の普及啓発活動



・R1/10/16に、「県民参加生きものモニタリング結果をどう活かすか」をテーマに第6回生きものフォーラムを90人の参加者を得て開催した。今後に繋げる手がかりができた。R1/10/16に大宮区で初めてサイエンスカフェを開催した。（来訪者30人）シカの増加をテーマに



開催し、シカソーセージを提供した。

④工場内ビオトープ創設の基本設計の受託

- ・ビオトープを目指す工場敷地に生息する動植物基本設計調査を会員（7人）で実施。

3. 活動の成果

- ・台風で多くの倒木が出た緑の森博物館の当団体管理地（0.9ha）の里山整備ができた。
- ・フォーラムでは、県モニに参加した多くの団体関係者、行政、環境団体、研究者など90人の参加を得て「市民参加」の必要性が広報でき、関係者と交流も図れた。
- ・設計受託は団体の活動の幅が広がった。事業所の取組にNPO団体として貢献できた。
- ・サイエンスカフェでは、開催のノウハウを得ることができた。

4. 今後に残された課題

- ・オオフサモ除去活動は、原市沼川のモニタリングの継続と新たな取組場所の設定。
- ・里山保全活動は整備の方向性を再検証すること。また、参加者が里山保全活動の全体像を十分に理解、体験、伝播できるようになること。
- ・多角的な情報発信役をするための自らの活動の強化（対象の拡大、実践・研究・モニタリングの深化、活動分野の多角化など）を図っていくこと。また、会員のマンパワーがあまり大きくないので、事業の分担と効率的な推進にも留意すること。